

令和 4 年度 学校評価 関係者評価票

学 校 名 : 兵 庫 県 立 千 種 高 等 学 校

1 学校教育目標

郷土を愛する心と純真素朴な気風を育み、たくましい身体と強い意志をもって、命と人権を大切に社会に貢献する、こころ豊かで自立する人づくりをめざす。

2 重点目標

- ①地域になくなくてはならない「信頼される学校」、「魅力ある学校」づくりの推進を図る。
- ②特色ある3類型と特色ある教育課程を編成し、確かな学力と人間性をそなえた生徒の育成を図るとともに、自己実現と進路目標の達成を図る。
- ③教職員の資質と実践的指導力の向上を図る。
- ④互いを認め合う望ましい人間関係を築きながら、食育・福祉教育や安全教育の推進を図る。

4 総合的な学校関係者評価

・千種の連携一貫教育（たたら里学園）に於いて千種高校の存在は大きい。園小中の子ども達が千高の取組や千高生を間近に見、ともに活動することで目指すべき所、目指すべき姿となっているように思う。  
 ・千種高校が連携一貫教育の出口（進路）としてその存在を高めていくことは、園小中は勿論のこと、千種高校自体も発展させることにつながる。遠路から通勤され、連携も含めより多くの職務をこなされている先生方には頭が下がる思いである。地域としてもそれに応え支援して生きたい。  
 ・信頼される学校、魅力ある学校づくりを目指して生徒、先生が一つになって努力している姿がすばらしい。  
 ・千種高校は小規模学校で先生と生徒の距離が近く相談しやすい環境だと思います。その分先生の負担も増えることも多いかと思いますが、今後ともよろしく願います。

3 自己評価結果

※評価点は、4点満点

○：良好な評価 ◇課題等

No. 1

	実践目標	実践項目	4年度	4年度	3年度	良かった点・課題・改善策等	自己評価、改善策の適切さに関する学校関係者評価
			1月評価	7月評価	1月評価		
1	地域になくなくてはならない「信頼される学校」、「魅力ある学校」づくりの推進を図る。	ホームページの充実を図り、学校の様子を随時発信する。	3.9	3.8	4.0	○ホームページがリニューアルし、魅力あるものになった。 ◇教頭先生が転勤された後が大変である。	・先生方の業務が多い中、さらに地域行事まちづくり会議等積極的に参加されている姿勢には頭が下がる思いである。段取りも含め大変ではあるが、その分子ども達の貴重な体験、気づきの場になっているようだ。また、千種高校生の発信力や態度は地域の好感を得てよいPRの場ともなっている。 ・ホームページは行事があるたびに発信され興味深く見せてもらいました。 ・「防災のつどい」「高齢者へのスマホ講座」「千種未来会議」など地域の中にとけ込んでいます。 生徒が出身中学の進路説明会に生の声を伝えることは大切なことである。 ・ほぼ毎日のホームページの更新はありがたいです。学校の様子等がよくわかります。今後は複数体制にすれば教頭先生の負担も減るのではないのでしょうか。
2		学校行事、授業参観等を実施し、開かれた学校づくりに努め、その感想や意見を学校経営に役立てる。	3.6	3.2	3.4	○映画祭の実施により、多くの地域の方が本校を訪れてもらえる機会となり地域に信頼される学校に大きく前進する取組となった。	
3		生徒が地域と関わる機会を増やし、地域社会の発展を願う気持ちを高揚させる。	3.7	3.8	3.8	○千種の町おこしの取組に協力することができた。	
4		千種町園小中高連携一貫教育推進事業との連携を深め、まちづくり活動を推進する中で、「行きたい高校」として本校の存在を身近に感じさせる。	3.8	3.6	3.6	○千種高校の人気は年々増しているように感じる。 ○生徒が出身中学校の進路説明会において生の声を伝えることが良い宣伝になっている。 ◇交流授業は限られた先生に偏っているので多くの先生にやってもらいたい。	
5		行事や授業を通じて「連携型中高一貫教育校」の定着、発展を図る。	3.4	3.5	3.8	○コロナ禍であったが、昨年度より交流行事が多くできたことは良かった。	
6	特色ある3つの類型と特色ある教育課程を編成し、確かな学力と人間性をそなえた生徒の育成を図るとともに、自己実現と進路目標の達成を図る。	挨拶の励行等基本的生活習慣および品格ある自覚した行動の確立に努めさせる。	3.4	3.3	3.6	◇元気な挨拶をする生徒が減少しているように思う。	
7		教科指導・総合的な探究の時間等を通して、生徒が自己の意見を論理的に明確に表現できるよう指導に努める。	3.5	3.3	3.4	○タブレットの導入により、自己表現の手段が増えた。 ◇デジタルネットリテラシー含め、有効に使えるよう指導をしなければならない。	
8		ふるさと貢献活動、就業体験、ふれあい育児等の体験的活動を多く取り入れ、生徒個々の自己有用感を高める。	3.4	3.5	3.4	○就業体験で生徒の将来の希望先と重なる様に事業所選択の幅を広げた。	
9		部活動、委員会活動への参加を積極的に推進し、充実した高校生活を支援する。	3.3	3.7	3.6	◇1年生の部活動加入を自由にした流れから部活動をサークル感覚で利用する生徒が増えた。 ◇教員の多忙さにより部活動まで十分に目がいき届いていない。	
10		進路説明会やLHR・面談等を通じて、主体的な進路選択能力の育成を図る。	3.5	3.4	3.6	○面談週間が定着し様々な教員と話をすることで生徒の進路の視野を広げた。	
11		体育的諸活動を通して、心身を錬磨し、将来の社会生活でたくましく生きる体力・精神力を養う。	3.5	3.2	3.6	○多くの生徒がマラソン大会や体育の授業に積極的に参加している。	

	実践目標	実践項目	4年度 1月評価	4年度 7月評価	3年度 1月評価	良かった点・課題・改善策等	自己評価、改善策の適切さに関する学校関係者評価
12	教職員の資質と実践的指導力の向上を図る。	各教科において、授業研究など学習指導について工夫・改善を行う。	3.4	3.4	3.3	○ICTを活用した魅力的な授業が多く、教員のスキルが大幅に向上している。 ○それぞれ授業の方法を工夫しているがそれを見に行く余裕がない。	・学習指導は少人数形式で大変充実した授業になっているように思う（オープンスクール）。これは千種高校の強みの一つである。その分教師の負担も多いがやはり進路指導、学力向上は中心となる取組だけに指導姿勢、指導法等の教師間に於ける研修は望まれる。 ・「宍粟学」で宍粟のすばらしさを学んで欲しい。「宍粟学」で学んだことを3年生でまとめ、発表する機会があったらいいと思います。 ・進路説明会等を丁寧に重ねてくださり、個々の生徒の進路が決まるまで粘り強く指導育成して下さることは大変ありがたい。
13		教科の枠を超えた授業の公開や研修会によって相互に研鑽する。	2.6	2.5	2.6	◇教員の人数が減少し、他教科の授業を見学に行く時間的余裕がない。	
14		地域の人材や素材を活用した特色ある授業の取り組みを行う。	3.5	3.2	3.5	○総合探究の授業で地域の方々に変なお世話になり、有意義な授業をしていただいた。 ○1年生の総合探究は地域を知る良い学びである。 ○木工の授業は大変すばらしく、生徒も熱心に取り組んでいた。	
15		生徒の実態や能力に応じて、個に応じたきめ細かい学習指導を実践する。	3.5	3.5	3.4	◇個に応じたきめ細かい指導する新しい教材を検討する。	
16		課題や宿題の指導を通して、家庭学習の習慣化を図る。	3.0	2.7	3.2	◇課題等の家庭学習が定着できる良い方法がなかなか見当たらない。	
17		基礎学力の定着や資格取得のための補習を実施する。	3.2	3.1	3.4	○簿記や情報系の資格取得のための補習はよくできている。 ◇基礎学力の定着のための取組は人と時間が足りない。 ○授業で苦戦してる生徒に声かけや、補習を行った。 ◇部活動で忙しく、時間がとれないケースが多い。	
18		家庭連絡や家庭訪問を通して、保護者との情報交換や意思の疎通を図る。	3.8	3.4	3.3	○体調不良だけでなく細かなことでも丁寧に情報共有ができている。 ○小さなことでも保護者と連絡がとれており、信頼関係が築けている。 ◇保護者に連絡がとれる対策が必要である。	
19		生徒の進路希望を達成するために、情報の収集や提供を行い、適切な進路指導を行う。	3.5	3.2	3.6	○進路ガイダンスや個人面談で進路意識の向上ができている。 ◇保護者が進路に関心を持ってもらう取組が必要である。	
20	互いを認め合う望ましい人間関係を築きながら、食育・福祉教育や安全教育の推進を図る。	マナーや規律、規範意識を高める取り組みを、ホームルーム、生徒会活動等で行う。	3.5	3.2	3.7	○マナー違反等に生徒指導部で組織的に対応できた。 ○生徒会を含めた生徒手帳の見直しができた。 ○第1ボタンを留めるようになり、ネクタイをはずす生徒がいなくなった。 ○全校集会での生徒指導部長の話が良かった。 ◇マナーや規律が守れなくなってきている風潮が見られる。	・個人面談を重要視され実践されていることは、子ども達にとってはとても意義のあることだと考える。子ども達が自身を客観的に見つめ、自己肯定感を高め、新たに目標を設定するまたとない機会となっていることでしょうか。「教師の多忙感が増す」と言うことですが、それに見合った大きな成果があるように思う。 ・互いに助け合い仲良く楽しく高校生活を送りながら、地域社会に役立つ人間として育成していただきたい。 ・米作り体験をして入賞したことは生徒達の自信になっています。もし可能ならばですが高校生専用の田んぼで高校生のみで作る米もできればいいですね。連携での米作りはそのまま継続していただきたいです。
21		生徒一人ひとりの役割や居場所を、クラスの中や様々な教育活動の場において設定する。	3.5	3.5	3.8	○4月に全学年での交流行事ができたことは新入生の不安を取り除く良い機会となった。	
22		生徒の個人面談や、日頃の声かけ指導を積極的に行う。	3.7	3.5	3.8	○全員面談を行ったことにより、早い段階で悩み等の相談ができ全体にフィードバックできた。 ○自己存在感・自己有用感の意識ができた。 ○とても丁寧に多くの目で生徒を見ることができている。 ◇個人面談は大変有効であるが、教員の多忙感が増している。 ◇面談週間は短縮授業にしてはどうか。	
23		防災教育や安全教育を、ホームルームや学校全体で行う。	3.4	3.2	3.4	○2学年の校外学習で「人と防災未来センター」へ見学に行ったことがよかった。	
24		人権に関わる課題を知識として学ぶだけでなく、日常生活において態度や行動に現れるような人権感覚の育成に努める。	3.3	3.5	3.6	○日頃の授業の中にニュースを取り入れ、人権感覚を育成できた。 ○こまめな声かけや個人面談で人権感覚の育成ができている。	
25		教育活動全般を通じて、情報の活用に伴う情報モラルの育成に努める。	3.4	3.3	3.6	◇年度当初機器が揃わず、またパスワードやIDの設定に膨大な時間がかかり授業にも支障がでた。 ◇パスワード忘れに対応するための教師のオリエンテーションが必要である。 ◇タブレットの目的外使用の指導や校内ルールの周知と家庭の理解が必要である。	
26		キャンパスカウンセラーと連携を密に取るなど、特別な支援を要する生徒や悩みを抱える生徒の支援体制を作る。	3.5	3.3	3.4	○ケース会議をはじめ、より特別な配慮が必要な生徒へ適切な関わりができている。 ○ケース会議で特別支援の専門家より助言を頂く機会があり教員のスキルが向上した。	
27		ホームルーム活動等を通じて、いじめ未然防止に向けた取組を行っている。	3.7	3.4	3.4	○いじめが起きないクラスにするためのホームルームを全学年で行っている。 ○4月に行った全校生徒による交流はいじめ防止になったと思う。	
28	自然や人と関わる体験活動、食育等を通じて、心身ともに健康で命を大切にす生徒の育成に努めている。	3.4	3.3	3.6	○給食センターの管理栄養士さんの講演がよかった。 ○お米作りから給食でそのお米を食べる機会がつけられるのは本校の特色であり、今後も継続してほしい。		